

平成 16 年度第 8 回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会議事録

時間 平成 16 年 6 月 30 日 14 : 00 ~ 17 : 00

場所 府中市役所北庁舎第一会議室

出席委員 浅田委員 小川委員 小熊委員 北場委員 北村委員 木下委員 澤野委員
杉村委員 田口委員 庭山委員 平田委員 山村委員 弓削田委員

欠席委員 北川委員

(事務局) 吉永子育て支援本部長 吉野子育て支援課長 加藤保育課長

田添待機児解消推進担当主幹 戸井田保育課主幹

松本子育て支援課推進係長 小泉保育課主事 石堂子育て支援課主事

次第

1. 開会
2. 傍聴人の入場について
3. 資料の確認

議題

1. 府中市次世代育成支援行動計画中間のまとめの作成について
2. その他
(1) 第 9 回協議会の開催日及び会場の確認について

1. 開 会
2. 傍聴人の入場について

子育て支援課長

ただ今から、第 8 回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会を始めさせていただきます。

今日は、平田委員と澤野委員は遅刻というご連絡を頂いております。

傍聴の方がいらしていますので、入って頂いてよろしいでしょうか。

委員会一同 了承

3. 資料の確認

子育て支援課長

最初に、資料の確認をさせていただきます。資料の 8 - 1 「府中市次世代育成支援行動計画中間まとめの作成にあたって」ということで、これまでの意見内容をまとめたものがございます。参考資料としまして、「次世代育成支援行動計画策定指針」の基本的な考え方、子育て関係者・施策一覧が 1 枚、「府中市 N P O ・ボランティア活動及び協働の推進に関する指針」がございます。また、山村委員の方から、社会福祉協議会の事業概要等について資料をご提供頂きました。資料は以上でございます。それでは会長、よろしく申し上げます。

会長

今日は、一応2時間ということで司会進行をさせて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、この協議会のスケジュールで、先週まででテーマ別検討を終わらして、11項目行いました。これは、府中市、総研の方で、アンケート調査の自由記述等々をご覧になって、国の方から示されている計画の全項目を一応整理されたと理解をしています。今日の議事次第の次に出ております、参考1の「次世代育成支援行動計画策定指針」の基本的考え方ですが、基本理念、計画策定に当たっての基本的な視点、の市町村行動計画の内容に関する事項ということで、これは7項目に分解されていますが、ほぼこれに対応するものが、先回までの3回のテーマ別検討会で議論したことです。

7月の末までに今日を入れて3回の会合がございますが、この会合の中で中間まとめを行うことになっております。中間まとめがどういう性格のものを、我々も心に入れておかなければいけません。7月末に中間まとめをまとめると、8月上旬に市役所の事務局作業として庁内に報告をして、事業量を東京都に報告します。それから議会や市民への中間報告の説明会をします。さらに10月には、パブリックコメントという形で、一般市民の方から意見を聴取する際の素材として、使われるということでございます。

市の方からも発言をして頂きたいと思いますが、形としては最終案ではなく、一応全体像が出た方がいいのではと思います。ただ、府中市の場合は、福祉計画や学童保育関係のそれぞれの専門分野で検討した結果が出ていますし、そんなに時間も経っておりませんので、その上でこの行動計画の中で、何を議論すべきなのか、何を付加すべきなのかという2つの要素があります。つまり、今までの福祉計画プラスアルファということで、特にまた取り上げる必要があるもの、あるいは今までのニーズ調査等を行った上で見えてこなかった部分のプラスアルファと、今までの計画の延長で流していいものという議論の分け方があるのかもしれませんが、3回の議論の中でどのような形で中間まとめをしていくのか、皆さんで少し意見を出して頂いて、共通理解のもとで議論を進めた方がいいと思っております。

まず、市の方で中間まとめというのはどういうものか、理想像でも構いませんので、ご意見をお願いします。

子育て支援課長

市として、最初にこの協議会に中間のまとめをお願いいたしました。このねらいは、少子化の中で、国を挙げてこの行動計画を作っていくということを、現状として、市民の方にまだ伝え切れていないという面があります。

例えば、広報等で策定指針などを示しても、何も興味を引かないといいますが、伝え切れない部分があります。市としてはこの協議会が立ち上がって、中間段階で前段ニーズ調査をすることになっておりましたので、それらの集約結果から、市民の方はどう思っているのか、どういう意見があるのかを協議会としてとらえ、おおよその粗筋や考えをお示して頂ければ、それらを市民の方にお示しすることによって、今回の全国的に行動計画を作っていくという部分が、上手く市民の方に伝えられるのではないかと発想がございま

す。現時点で、市としてはこのような形を考えております。最初に言いました、ニーズ調査の時に、膨大な自由意見を頂いています。それを踏まえて、市民の方がどういう意見、要望をされているかということ、事務局サイドで、前段取りまとめをしたいと思えます。その後、この会議で、どう受けとめて、施策として組むのかということ、お示し頂ければと思います。

先ほど会長からお話がありましたが、たぶんそれでは全範囲をカバーできておりません。ただ、実態としては、福祉計画や諸々の計画の中で、ほぼ範囲はとらえておりますので、これまでのテーマ別の会議でもお示ししておりますが、それは会議の検討とは別に、例えば、参考資料として各計画の全範囲を組みかえて、現況をまとめてお示しできるのではないかと思います。それらをあわせて、中間のまとめで出して頂ければ宜しいのではないかと考えております。

会長

それでは、皆様から一言ずつ、順不同で構いませんので、発言をして頂きたいと思えます。府中市はつい最近まで、いろいろな福祉計画をお作りになって、その中に児童分野も入っておりますし、かなり重なる部分もあります。そういうものを前提にして、新しい今回の行動計画に、何をプラスアルファするのかという視点で考えた時に、府中市としてこの次世代行動計画に何を盛り込むのか、更に言えば、府中の場合、既に福祉計画がありますから、福祉計画以降に何をプラスアルファするのかということになります。たぶん沢山のお金を使ってやって頂いたニーズ調査の中から、今まで福祉計画では見えてこなかった課題や、新しい対応が必要な部分をどう抜き出していくかということ、この行動計画の中で集中的に議論すれば、今までの福祉計画を無視せずに、その流れの延長としてこの計画を進めることができ、せっかくお金を使ってやって頂いたニーズ調査や、自由意見を書いて下さった人達の思いを、この行動計画に盛り込むという意味があるのではないのでしょうか。

例えば、虐待の問題、障害児の問題、この前お話し頂いた、集中できない子どもの病気の問題など、非常に新しい障害の問題もあります。その中に、府中市で緊急にやるべきものと、全国レベル或は今までの福祉計画の延長でいいものにと切り分けて、新しい課題について、2回程度方向性を含めて集中して議論して、3回目の時に、今までの福祉計画を含めた全項目にもう一度目を通して、何かコメントをすることがあるかどうかということ、2段階に分けたらいかがでしょうか。私の1つの案として申し上げました。

もう1つ皆さんにコメントして頂きたいのは、この計画のスタンスです。勿論これは少子化が進んでいるということ、これをきっかけにして作ったものですが、府中市のこの計画のスタンス、つまり少子化とどう絡めるのか、これまでの計画の中で少子化の根本的な解決であるとか、地域の視点であるとか、子どもの主体の面であるとか、幾つかの視点が出ていますが、府中市の行動計画をどういうスタンスで、どのようなところを大事にして作っていくのかということについて、今までもいろいろ議論は出ていますが、改めて今までの議論を踏まえて、意見を出して頂ければと思います。この計画のスタンスと、今までの議論を踏まえて、府中市としての緊急の課題というのは一体何かの2点について、皆さんからお1人ずつコメントして頂ければと思います。

委員

この計画のスタンスについてまだ少しお話しできませんが、福祉計画の緊急の課題ということで、前回の最後の方に「ポップコーン」のお話が出ましたが、今までの流れの中で自分が一番強く思うことは、こういう場合に、人材の育成ということを経験に口にしませんが、それをどうやってやるかというところが非常に難しい部分で、ボランティアを集めれば人材を確保できるというのはわかっていることですが、その前に、私は府中国際交流サロンの立ち上げの時からずっと関わっていますが、市役所の方とボランティアがやり方を作り上げていくというところがとても大変だったように思います。また、大きな箱物が府中の駅前にできるというお話があって、それはとても素晴らしいと思いますが、結局また新しいものを作り上げていくということになると、行政の方はボランティアに頼めばいいという感覚ではないと思いますが、お金を貰うか貰わないか、してあげるということではなくて、やっているうちに自分の喜びになっていくという気持ちの教育など、ボランティアを募集して組織づくりをしていくことは一番大事なことで、時間もかかるし、それが新しい箱物ができた時の、上手くいくキーポイントではと思っています。

会長

スタンスの話は後でおっしゃいましたが、この議論の中で、例えば、行政に頼らないで、市民が自分達でやっていく意識を持つことが大切であるというご意見がありました。逆に言えば、行政に頼らないためには、市民にそういう組織を作り、人材を養成しなければいけません。市民のマンパワーをどうやって養成し、育成するかという具体策や、方向性を出さないと、本当に絵に書いた餅になるということでしょう。

委員

そういうことです。例えば、報酬を払うのか払わないのかということは、とても大きな問題で、それによってボランティアの人がいろいろな気持ちを持つと思います。話し合いがスタートされないと、箱物ができても上手くタイアップができないと思います。そうやっているうちに、スタンスの問題もそこに絡んでくるのかという気がします。

会長

他の方がいいですか。

委員

やはり福祉計画だけでは既存のものになると思います。20～30歳の方が、第1子を出産していくのがだんだん低下ぎみにあるという中で、その年齢層がどうやって子どもを産み、育てるのが大事なことになるのか、地域でバックアップする体制があって、一緒に子育てをしていく関係性の持てる地域づくりが必要です。やはり女性の生き方というのが、そういう意味では、ここ数年大いに変わってきていて、労働の問題から男女参画の社会といった部分が大いに左右されてきているのではと思うので、それぞれの女性たちが生き方を選択できる世の中になってきて、どのようにマッチさせていくかということが大いにあるので

はないかと思います。少子化がどんどん進んでいくのは基本的によくはない訳ですから、その部分を何としてでも上げていかなければいけません。その方策みたいなことが具体的に拳がらない限り、中身の充実といっても、まずは産めるような環境を整えていかなければいけないと思います。いろいろな生活パターンがある中で、いろいろな相談業務ができる体制、委託という形がどんどん進む中では大変厳しくなってきたと思います。相談業務の充実、前回のことをさらに強調したいと思います。

また、気になるところは、子どもたちに意見を聞いていないので、その辺についてはこれで進んでよいのだろうかと思います。保護者に聞いているだけでは終わらない問題だと思います。ぜひ、子どもの意見を聞いていきたいと思います。

会長

いわゆる子育て期、出産期にあるという失礼ですが、そういう女性がいろいろなライフスタイルをとろうとしています。働いている方、働きたいけれども子育てのために働けない方、もちろん専業主婦の方、いろいろな生き方があります。そういう多様な選択を生かすためには、今働いている方の保育ニーズに十分マッチしてない、対応しているけれども量的に少ないという部分と、今まであまり関心がなかった働いていない方にとっても、子育て不安というのは非常に大きいと思います。つまり非常に孤独な中で、小さな子どもと向き合って密室の中で子育てをし、周りとの接点がない、或はその年代のご主人は非常に仕事が忙しくなかなか育児に協力してくれない、そういう中での育児不安、更に親子の場が欲しいなど、府中市の場合にも「ポップコーン」などをもっと拡大して欲しい、親子が触れ合い集えるような場をもっと確保して欲しいという声が、随分強かった訳です。働く人の保育の問題、それから働いていない人の育児不安の問題、或は職を探して働きたい人に対する保育対策と育児不安の問題など、この辺りが今回のニーズ調査でいろいろ出てきた部分です。それから相談の部分もあると思います。

最後に出た、子どもたちの意見を聞くということで、議事録を見ると、子どもの児童委員、青少年対策委員会とありますが、これは年齢的にいうと幾つぐらいですか。

委員

青少年対策地区委員会は小学生・中学生と思います。

会長

前に皆さん聞いてきて、それを報告して頂けませんかという話をしましたが、確かに国際人権規約等でも、子どもの主体的な意見を聞くというのは非常に重要だということが言われておりますが、具体的にどうするのかということです。手続的に聞くのは、例えば、小学校に行って先生にお話しして、クラスの皆さんに作文か何かを書いてもらうというやり方もあるのかもしれません。今回、次回あたりの議論でそういう手法をとるべきである、手続を踏むべきであるということであるとすると、具体的にどういうやり方がとれるのでしょうか。

委員

具体的には、PTAの方から出したり、このことについて親子で考えようという機会の中で、子どもにどんどん意見を聞くなどのルートがあるのではと思います。PTAの方から、ここの委員会から、声を大にして頂ければ、全市に広がると思います。

会長

例えば、私どものアンケート調査する時に、先生が立っているとなかなか本音を言えません。本当に誰にも見られないという保証がないとなかなか本音を吐けませんから、親にこれを言われたら困るとか、先生が見ると嫌だとか、なかなか本音が出ないので、手続的にも相当気をつけないと子どもの本音は出てこないし、塾に行くのは嫌だとか、もっと遊びたいとか、勉強したくないなんていうのも子どもの本音かもしれません。何を聞きたいのかということと、手続をどうするのかと、これをきちんとやらないといけません。本音が聞こえたら、こんなことだったのかと思うかもしれません。これも1つの宿題として検討、留保しておきます。他の方がいいでしょうか。

委員

今のことと関連したことですが、この次世代育成の公募で会議に出席というのが決まった時に、ニーズ調査がありましたが、私は何を勘違いしたのか、子育てがだいぶ終わって、孫もいるわけじゃないので、自分自身の勉強と思って、近くの公園5～6カ所に行って、質問事項の何カ所かはそこで口頭で聞きました。幼稚園が少ないとか、幼稚園に入れたいけれど近くにないとか、ここで意見が出たようなことも、公園の中のお母さんやお父さんから聞きました。だから、こうやって自分が出て行って、本当にわずかな人にしか会えませんけれど、生の声を聞いたので、できると思います。

会長

せっかくですので、今までの7回の議論をお聞きになって、府中市の福祉計画プラスアルファとして、府中市の重点課題やこの計画の基本的なスタンスなど何かありますか。

委員

出席させて頂いて、プロの方の話や市の話聞いて、場違いかなと思いつつも中間のような立場ですつといました。ただ感じることは、これから次世代のことを計画して決めるというのは、人間以外にはないと思います。だから、もうお金を使うのではなくて、人を使うべきだというのは感じました。そのために、これから小さなことでもいいから知恵を出して、私なりに考えています。府中市というのは本当に素晴らしいと思います。私もよそから来ていますから、よその市役所を見たりしていますが、本当にきらびやかな建物ですばらしい市役所ばかりです。それに比べて、府中市は質素です。外からはそういうふうに感じます。そして、行政を見たりすると、私は幸せなことに他も見えていますし、府中も見せて頂いたので、感激することの方が多いです。

会長

役人のためにお金を使わないで市民のためにやっつけらっしゃる。

委員

そうです。事件も起こらないし、治安もいいです。ですから、お金を使わないで人を使うべきだと思います。こんなすてきな府中ですから、いっぱい人材はあります。

会長

私流に翻訳させて頂くと、地域の子育てという中で、子どもを次の世代の良い大人にしていくためには、勿論親もそうですが、ただ親にお金を与えるばかりではなくて、地域の良い人達がいろいろな意味でサポートしていくようなシステムを作るべきであると思います。

委員

やはりお金というと、心の温かさが感じられないと思います。人間は人間同士の温かさが一番通じると思います。だからそこをどうしたらいいのか考えつかないのですけれども、それができたらすばらしいと思います。

会長

逆に言えば、少し抽象的ですけども、人が触れ合うような、親子も勿論そうだけれども、地域の大人と子ども達が触れ合えるような仕掛けづくり、場づくり、自分と血のつながりのない子どもであっても交流できるような関係性を作るということです。

委員

ここに出させて頂いて一番強く感じたのは、今までのつながりじゃなくて、新しいつながりをこれから作っていくという方向性です。スタンスの話で申し訳ありません。先程、会長からお話がありましたが、やはり親子のつながり、子どもは子どものつながり、或は今まで意外とあったのは、サービスはばらばらでも、そのサービスのところでは子どもは子ども同士、親は親同士でつながりができていたのかもしれませんが、それが全体に行き渡ってなくて、上手くいってはいるが、府中市としての大きさがそこにはないのではというような気がします。新たなつながりというものが1つスタンスになると思います。今までの地域のつながりだけでなく、新たなつながりというのを感じました。

会長

今のお話は、今までの地域のつながりというのと、新しいつながりというのをもう少し。今までの地域のつながりは、例えば、隣近所、自治会、地縁的なつながりなどですか。

委員

それもあると思います。言い方は変かもしれませんが、新しい人が府中市に随分引越してきますが、何かを求めようとする時に地域に求めないで、「ポップコーン」などのサークルに求めているような感じがします。新しいところに人と人とのつながりを求めてきています。地域とのつながりの差が出てきて、差が出ないように皆さん努力しているのです

が、実際は情報の行き違いなどがあります。この前皆さんからお話がありましたように、1点だけかここに聞けば、子育ての情報がわかるという人がいれば、それはくっついていくだろうと思います。

会長

今までの地域のつながりと新しいつながりというお話は、府中市もかなり流入人口が多くて、これは少し後で行政の方にお話しして頂いた方がいいと思います。例えば、ついこの前、合計特殊出生率が1.29になって1.3を割り込んだ、東京都が1を割り込んだということですがけれども、府中市の合計特殊出生率がどうなったかを少しご説明頂けますか。府中市の場合、それが昨年と、今までのトレンドから増えているのか、減っているのか、その要因みたいなものをもし何か分析されていたらお願いします。

子育て支援課長

数字は、調べておりますので、後程ご説明します。出生数そのものは現状、これまでの資料でも確か出したと思いますが、減る傾向にはなくて、大体2,300人ぐらいのところではほぼ同一レベルです。各歳年齢別でいきますと、流入という部分もありますので、伸びております。前回ですか、その前に出した、21年度までの、小学生の数字を見ると、何百人という数が増えてしまうという状況です。ですから、我々がいろいろな検討をする中で、当面は子どもは減らないという前提で、それぞれのセクションが対応しているという状況でございます。

会長

前に出して頂いた資料の5 - 1で、平成14年の府中市の合計特殊出生率が1.29となっています。多分、前回のお話では3ぐらいを超えているというお話なので、府中市の場合はむしろ若干増えています。しかも前回、小学校の空き教室の話をしたら、むしろ足りないおそれがあるということで、勿論出生数はわかりませんが、かなり他の市からの流入傾向、住宅やマンションができたので、若い世代が入ってきているということも、府中市の特殊事業があるのかもしれないかもしれません。そうすると、少子化対策を考える上で、殆どの県は減っている訳ですが、府中市は逆に増えているではないかという議論が、増えたところで1.3ですから、人口は減るということで大きな差はないのですが、とにかくその辺りがあって、逆に言えば新しい流入の住民と、元々住んでいる住民との接点をどうするのか、情報についても、住民は結構どこに何があるかというのはよくご存じだけでも、新しい住民の方は、なかなかそれに気がつかないという傾向にあります。ここの部分をどうするのかというのが、今、木下委員の方からお話のあった部分ではないかと思います。

例えば、具体的に方向性として、接点を作るとか、新しい住民が子育てに悩まないような方法として、木下委員のお立場で、方法というのは何かございますか。

委員

方法は、抽象的な話ですが、皆さんがおっしゃるように心と心、顔を合わせてお話しするという場があれば、いろいろなことが自然と出てくるだろうと思われれます。先程も少し

「ポップコーン」の話が出ましたが、あまり限定しないで、例えば、そこに誰か他の人が遊びに来られるような、子育てということで銘打ちますが、「誰でもいいですよ、来てください、おじいさんやおばあさんでもいいですから一緒に来てください」と、少し理想形に近いですが、そういうことがあれば顔が覚えられて、心も開くのではないかという気がします。

会長

ひろば事業などはやっていらっしゃいますか。

委員

っております。

会長

他の方、いかがでしょうか。

委員

今まで検討を重ねてきて、自由意見の部分を中心に取り上げましょうということで来たかと思いますが、それはとても大切なことでよかったと思いますし、これからの議論の中で、やらなくてはいけないと思いますのが、今、会長からも少しお話が出たような、その課題が、要するに府中独自のものなのか、或は東京都を含めた全国的なものなのかという部分の分析はとても大切だと思います。

課題については、どちらかといいますと、これから作っていくものが多いと思いますが、すべてが課題ではなくて、逆に府中独自ですばらしいもの、小地域などで市民が主体的にやっていますばらしいものはたくさんあると思います。まさにこれが行動計画ということであれば、課題をいろいろやって、こうしていけばいいということも必要でしょうが、それに合わせて既に特色ある活動というものがあれば、それを市民に周知していくような視点も合わせてやっていった方がいいと思います。既にこんなにいい活動があって、こんなにいい場面があって、こんな交流ができてとか、こんな活動ができているというものは、あえてそれを取り上げて市民に周知していくといいのではと感じます。

会長

非常にきれいに整理して頂いたのですが、具体的に府中市でいいところというのは、1例でも2例でも何かございますか。

委員

府中独自の特色といいますと、よく言われますのが、小地域などで新旧住民がなかなか接点がないとか、或は大人と子ども達の接点がないということですが、自治会長などに聞きますと、自治会行事であったり、府中はお祭りが多いものですから、そういうお祭りの部分を1つの行事にとらえて、新しい人や、世代間で交流をしたりというようなことをよく聞きます。そういうのは結構あちこちで始まっていて、あとは伝承遊びなどの交流が始

まっています。調査をすれば沢山出てくると思います。

会長

逆に言えば、府中市は地域のコミュニティというか、昔ながらのコミュニティや、文化的な伝承がかなり残っているのかもしれませんが、それはいつまで続くかわからないけれども、それを上手く新しい時代に即応するように利用していくということが大切です。皆さん地元の方がご存じないというか、評価されてないと思います。むしろ外から見ると、こんなものが残っているのかという部分があるので、多分そういう指摘だと思います。逆に、地元の方に聞いても、そんなに意味があることなのかということになるのかもしれませんが、新住民の方から見て、参加してみたいけど、どこに行ったら参加できるかわからないので、いつも傍観者で見ているということがあるのかもしれませんが。

本当につまらない話ですが、府中市のニュースが出ると、昔の何とか古墳が出たとか、今朝もテレビでカプトガニがどうのこうのと出てましたが、そういうものを上手く使うというか、府中が持っているものを上手く活用すると確かに面白いかもしれません。特にそれを新住民の方との接点に使うというのは非常におもしろいかもしれません。更に言えば、誰が担うのかということも突っ込みたくなりますが、それはまた後の議論にさせて頂きます。

委員

自分自身でもあまりまとまり切らないと思いますが、私はどうしても、すべての子どもと家庭への支援の視点というか、そこが中心になるという思いがあります。今ここに参加させて頂いて一番感じるのは、情報の窓口がきちんとあることが大切だということと、これから子育てをしていくという中で、いろいろな家族の形態があり、その方達に何かがあった時に助けてもらえるサービスというのも必要だろうし、また別に子育てを楽しむために必要なサービスもあるだろうし、どうしても公的機関が関わっていかざるを得ない、そういう対象のサービスも必要だろうと思います。それをきちんと整理して、今あるものをやっっていく、その大前提が、早く子育てをしている人達にコミュニケーションをとることなのではと思います。府中市民の中で子育てを始められるお父さん、お母さん達に、子育てを、楽しみながら勉強して頂くことが最初にあると思います。そのために、先程おっしゃっていたいろいろな行事があったり、またそういう場所があったり、そういうところに自由に入ったりできる人がいて、またそこに助けてくださる方が集まれるような、そういうシステムが一番必要なのではと思っています。

会長

例えば「しらとり」で、地元のボランティアとの接点というのは、専門の窓口みたいなものは、法人としてお持ちでいらっしゃるんですか。

委員

「しらとり」を運営させて頂いていて、最初にボランティアは、隣に老人ホームがありますので、そちらにいらっしゃる民生委員の弓削田委員のところと、昔から老人ホームは

年に2回ぐらいの懇談会をさせて頂いて、「しらとり」ができた時に、今度は子どもの方もぜひやって下さいという願いをして始まったのが現実です。オープンルームが始まりまして、そちらの方にも1回やるごとに、4人の民生委員に来て頂いて、中に一緒にお入り頂いております。

もう1つは、社協から、ボランティアになりたいという人達の受け入れをさせて頂きながら、関わっていきたいという方がいらっしゃると受け入れて、ボランティアとしてさせて頂いています。今もその形でずっと続いています。あとは学生でアルバイトに来ていたり、例えば、ボランティアをやりたいという学生が各大学から来たりすると、それは施設の方で直接受けたり、もう1つは、社協を通してこちらの方に来て頂いたりという形でやっているところですよ。

会長

つまり、活動の場があって、そこに民生委員の方とか、社協の人達とのネットワークの中で民生委員の方に来て頂く、或はボランティアの方に来て頂く、勿論個別の方もいらっしゃるけど、今はある意味で地域の機関とのネットワークを作られて、ボランティアを受け入れられている、そこでボランティアの方も実践ができるし、施設の方もということですか。

委員

そうです。

会長

受け入れて、困ったことやトラブルはございますか。

委員

約8年やっておりますが、大きなトラブルは今のところないです。1つ、民生委員の方でも、最初自分達の持ち場というのがわからなかった部分もあったかと思うんですが、徐々に今は自分達で分担してお仕事して頂いております。1回に40組、50組の方が「しらとり」にもいらして、その中で職員としているのは、リーダーをやる職員が1人と、あとは相談員というメンバーが2人か3人いるだけで、そこは何もしているわけではなくて、お母さん方との接点を探し回ったり、あとは民生委員やボランティアの方が、一緒になってお母さんと手伝ってやって下さっているという形です。

会長

そういう形というのは、8年おやりになっているから、自動的に、或はメンバーの方も何度か行っているとわかるのでしょうけれど、その辺りの研修、つまり施設の方は2人か3人しかいらっしゃらない、40組~50組の人達がいらっしゃる、ボランティアがいて、自分の役割に最初は戸惑いはあるんでしょうか。

委員

最初はあったと思います。

委員

委員は研修を受けておりますので、東京都の研修もございますし、福祉に対する心構えがあります。やはりそういうところへ行って、さらに子育ての悩みを一緒に聞けたらいいなど、そういう思いも込めてボランティアをしております。

会長

わかりました。民生委員の方はセミプロです。つまり人がたむろしていないところで、何かニーズがないか、多分そういう目でご覧になっていらっしゃる。

委員

そういうことも含めて、お知り合いになれば、町でお母さん方が声をかけて下さったり、オープンルームでボランティアしていることによって、私たちの民生委員活動もある程度PRまでとはいきませんが、わかって頂けると思います。最初から民生委員といえますと敬遠されることもありますので、最初は名乗らず、ボランティアとしてお手伝いしています。何年かたって、相談に見えたりすると、民生委員だったことがわかるという程度のことです。やはり研修は毎月毎月行っております。

会長

少しボランティアのお話をお願いします。

委員

社協のボランティアにつきましても、今日お手元にあったと思いますが、「ボランティア活動の推進事業の報告書」というのがあります。こちらの5ページをご覧になって頂きますと、講座・学習会の開催状況というのが載っているかと思います。初めてボランティアをやりたい方や、学生や社会人対象にいろいろなボランティア講座をやっているんですが、例えば、去年の入門講座を見ますと、1回から6回までは必須メニューということで、ボランティア活動について、一般的な基礎知識を勉強して頂いて、その後に子育てコースや行事体験コース、施設のコース、様々な体験をして研修を受けていくような、実体験と知識を十分とは言えませんが、事前に学習をして頂くという中で、先程のような「しらとり」の実践のボランティア活動に参加をしていくというような手続を私どもは行っております。勘違している方や、行ったけれども続かないという方はむしろ非常に少ないと思います。或はやっていく中で、こんなことを考えていて少し行き詰まっているとか、そういうことがあれば、ボランティアコーディネーターがおりますので、そのコーディネーターが、例えば「しらとり」の方と、ボランティアの中間に入りまして、お互いの意見を聞く中で調整をさせて頂く、そんな取り組みをしておりますので、先程のようなことが少ないのかなという感じはしております。

委員

少しオープンルームについてふれさせて頂ければ、「しらとり」の指導員の方が、2～3名非常にすぐれた方がいらっしゃいますので、子どももお母さんもリラックスして遊べるような雰囲気にして下さっています。

委員

本当にびっくりしました。こんなに素晴らしいのかとみんなに宣伝しています。私が行った時に、子どもが50人のお母さんが50人で、たった1人の先生が柱の陰に少し立っているのですが、あとはお母さん達が自分の子どもを抱っこして本当にゆったりしています。子どもというのは、声をだしたり、ごそごそ動くのが当たり前だと思っていたのですが、1人の先生が歌いながら手をついたりしていると、親子でじっと見とれています。それが、マンネリにしないで次から次に、変わっていくので見とれていました。その人材が素晴らしいと思いました。

会長

指導員の方は当然保育士の方でかなりベテランの方ですか。

委員

今の方は10年目ぐらいの人です。前は20年ぐらいの人でした。

委員

オープンルームだよりを毎月出して下さっているので、参考のために、皆さんに今度1部ずつお配りしてはいかがでしょうか。

会長

今のシステムを私的に分析をすると、民生委員の方はセミプロですが、ボランティアセンターで研修を受けた方が、逆にそういう指導員のちゃんという施設に入っていくと、多少のトラブルはあるでしょうが、比較的定着しやすいのではないのでしょうか。いきなりボランティアだけではなかなか大変だけれども、そういう環境の中で上手く入っていけると比較的スムーズにいけるのではないのでしょうか。

委員

一度ボランティアで来て下さった方の中に、例えば、ピアノが上手に弾けるとか、私は絵本を読むのが得意だとか、ご本人も、私もやってみたいという方がいらしたのですが、その場を設定してお勧めをしたんですが、当日になって少し怖くなってしまったのか、みんなの前でやるのが不安になってしまったのか、引いてしまいました。そこは非常勤の職員ですが、自分たちはある程度仕事というと語弊があるのかもしれませんが、その意識と、先程あったボランティアのやりたいという意識は非常にあるのですが、当日になって、少し今日はと言われてしまうと、お母さん方も期待して来ますし、プログラムのに参ってしまうところがあります。最初は、入り口のところでやりませんかと勧めるのですが、そこを超えるのが少し大変かと思います。

委員

指導員の方は非常に温かい心をお持ちです。私たちが抱っこしていても、学生が実習に入りますと、赤ちゃんを抱っこしてない学生になるべく抱かせてあげて下さいと、そっと言いにきます。跳び箱などいろいろな遊びをしますから、そういう時も私たちはけがをしないように目配り、気配りでボランティアをしています。

委員

それは、経験の長さで、突然行ってやりなさいと言っても無理です。

会長

場なれというのは確かにあります。最初の初舞台というのはなかなか大変だから、そこを通り抜けると自信もついてきます。

委員

今、ピアノを弾いている方はボランティアですか。

委員

ボランティアです。

委員

ピアノを弾いて下さっている方は、ボランティアから出ている方もいらっしゃいます。

会長

ボランティアは非常に人的な資源であるけれども、ボランティアに全部任せることはなかなかできません。ボランティアを養成するという仕掛けを上手くやらないといけません。それともう1つ、数の問題です。ニーズが非常に高くなって急に増えた時に、ボランティアだけで充足できるかどうかという議論もあるし、やはりボランティアを支援するような仕掛けというのを、逆に言えば新しい若い人達のボランティアを作ったり、養成していかなければならない訳だから、こういうシステムは絶対必要だし、本当にそれを現場に出て、まさに実習的な意味のことをやる場が絶対必要です。

委員

それから、「しらとり」を見せて頂いて、オープンルームで育ったお子さんは、小学校へ行っても、中学校へ行っても、やはり楽しさというのを経験してますから、随分幸せだと思います。

会長

それを作るのも大きな課題です。逆に言えば、「しらとり」のやり方をどうやって他のところに広めていけるのかという、ノウハウを上手く広めないといけません。

委員

たくさんは要らないでしょうが、もう少しあった方がいいと思います。

会長

他の方はいかがでしょうか。

委員

先程の府中市の特性のところですが、府中市は、国や都の方針にすぐに呼応して、いろいろ制度をおろしてきて、他の市に先んじて具体化していくというのが特徴だと思います。だから、毎回の意見の中でも申し上げているけれど、いろいろなことが結構網羅されていると思います。今日8回目ですけど、7回目までのいろいろな意見の中で出てきたのは、それをいかに上手く使えるかということがとても大きいと思います。網羅されているけど実際は使いにくかったということがいっぱいあった訳です。それと、アンケートの市民のニーズから、こういうことが必要とされているんだということが新たにわかったと思うので、それをどういうふうに入れていくかということだと思います。

当面の方針と長期の方針をきちんと位置づけて、1回目の会議の時にも、自分の疑問をぶつけながら始めた訳ですが、子育て支援課の子育ての支援の制度を作っている訳だから、子育ての1点みたいに思うけど、実際は国のいろいろな機構のあり方に関係する大きなところを直していかないとなかなかできないということがあり、原則ばかり言ってたら何もできないので、当面できることをどんどんやっということうことで、それはあくまでも対症療法的になっていってしまうと思うのですが、それでもやらないよりはやった方がいいし、ある箱物とかある制度とかを活用して動き出すことがすごく大事だと、この7回で思いながら関わっています。

しかし、あくまでも国の働き方の問題であったり、年金の問題であったり、いろいろなことに関わって、安心して生きていられる、安心して出産できて、安心して子育てできるということがまず大事ですが、そこがなかなかできないのでいろいろな制度でサポートしてるのですけれど、やはり制度を作るに当たっては、そのところをきちんと明確にうたった上で、当面できることをやっていくべきだと思っています。

その時に、今日、資料「府中市NPO・ボランティア活動及び協働の推進に関する指針」というのが出ている訳ですが、私もその委員をやっておりましたけれど、その中でも、やはり行政がやるべきこと、民間がやるべきこと、市民自らがやるべきこと、というのを明確にして提示していかないとはいけません。企業も市民も何をしようかとか、そういうことを文言できちんと位置づけていくということが、とても大事だと思います。協働の指針の方にはそういうことが割と明確にされていて、そういうところをきちんと整理して入れていくべきじゃないかと思っています。

新規に盛り込むことというのは、この7回の委員会までにいろいろな形で出てきたので、当面、一番大きいのはやはり情報の一元化ということで、あとはいかに上手く、制度や箱物など、今あるものを活用していくために、ある種の発想の転換をして規制を緩和しながら、自由に使えるようにしないと、どんな良い制度でも使いにくかったら何にもならない

ということをずっと思い続け、ここのところをきちんと明文化していくことが必要であると思います。

先程から出ているように、人材の問題やNPOの活用など、この7回の中でいろいろなことも出ています。ある程度必要ならば、先程の子どもの声もそうかもしれませんが、必要だと感じる側の意見を具体化するためにはどういうことが必要なのかという形で、例えば、人材の育成なら、今社協が主体でボランティアの育成をやっていますが、私たちが実際の仕事をしたら、ボランティアだけではできない仕事、資格を持ってないと関われない仕事がある現場もありますから、そういう時に、「ぼぼ」もそうですが、私たちは独自に研修会などやりながら、サポートに必要なスキルの向上などを絶えずやっています。経済的にも人材的にも、なかなかやり切れなません。そういうところを行政の役割、民間の役割、市民の役割という中で、例えば、行政がそういう人材を育てるなどの位置づけをきちんとして、全部行政に任せるのではなくて、もちろん自助、自力でやりますが、できない部分をきちんとバックアップをして育てるといような位置づけをきちんと明文化して、実行できるようにしていくことが大事であると思います。

会長

今日は、できれば府中市の緊急課題みたいなものを明らかにして、もし時間があれば今日と次回と、もう少し皆さんの方向性や、具体的にどうするかなど、行政との役割分担にしても、例えば、情報一元化について行政の役割は何か、民間の役割は何かというようなことを少し具体的に課題をやりながら、勿論 100%の回答は出ないにしても、行政や民間の方向性の議論も、この1～2回の間にとっとやっていきたいと思っています。なので、抽象的な議論だけではなく、府中市の現状を踏まえて、議論をできればと思っていますので、その辺りも含めて、念頭に置きながらご意見を頂ければと思います。

委員

抽象的な話になってしまいますが、切り口を、働いていない方と働いている方とに分けてお話しします。まず、専業主婦、働いていないお子さんをお持ちの方に関しては、母子が孤立しないための交流ひろばのようなものが、なるべく広範囲をカバーする形で必要だと思います。それから、ひろばと同じような定義になるかもしれませんが、雨が降った時に、子どもを安心して遊ばせることのできる場所の確保ということで、それは児童館のようなものだと私は漠然と思っています。そういったものがもう少し整備されるべきであると思っています。

働いている方、働きながら出産した方に関しては、働きながら子育てを安心してできるためには、残業や通勤時間のこともありますから、延長保育や病後児保育のさらなる充実、こういったものの数が十分そろえることが必要かと思っています。それ以前に、保育園に入りたいと思った時のために、入りたいと思う方全員が入れるほどの保育園の枠が必要だと思います。

子どもが小さいうちは専業主婦をしていた方も、子どもが小学校ぐらいに上がると、また働きたいと思われる方が増えると思います。そうした場時の、雇用が決まるまでの間の子どもの預け先も必要になります。

会長

求職中の預け先ですか。

委員

そうです。求職中に安心して預けておける場所、あまり高い保育料ではなく、公立の保育園と同じぐらいの値段で預かって頂ける一時保育のようなものがないと、求職活動ができないと思いますので、その辺の充実が必要ですし、ニーズがあると思いました。

また、わざわざ遠方まで働きに行くとなると、結局帰ってくるまでに時間がかかったり、子どもに何かあった時にすぐ帰れないというようなことが生じますので、できれば府中市内で、多くの女性の雇用を促進するように、市の働きかけができないかと思います。

逆にもう子育てからある程度手が離れて、このまま専業主婦でいいという方に関しては、せっかくいろいろな能力を持った方がいらっしゃると思いますので、それを活用できる場を持つことが必要じゃないかと思います。それが経済活動でなくても、ボランティア活動でも、NPO活動でも構わないと思います。自分が積極的に関わって、その方が自分の能力を発揮できる場づくりが必要かと思います。それが、いわゆる「ポップコーン」という場のボランティアかもしれません。自分は子育て期間が終わったけれど、今度はここで頑張ろうというような1つの流れができるのではと思います。

少し話が違うことになりますが、今府中市は、学童保育で障害児の受け入れを全面的にしていると聞いて、わざわざ他市から流入してくる方もいらっしゃると思います。受け入れをしている以上、それに対しての人員の確保や、障害児を受け入れるための設備がきちんとしていないと、どんどん流入してくるものの、もう手いっぱいということになってしまう。現状の把握が必要なのではと思います。

また、本来でしたら、出産するに適齢なのは大体20代から30代前半だと思いますが、その出生率が下がってきている。35～40歳近くになってから出産することによって、今度は自分の親の介護と育児が重なるとか、なかなか妊娠しにくくなるというような現象があるという事実があります。35歳を超えてから出産するということが、どういうことを意味するのかということも、もう少しきちんといろいろな人に知ってもらいたいと思います。高年齢になってから出産しようとするすと、なかなか妊娠できないということもあって、不妊治療をしなければいけない方も出てきますし、不妊治療で薬を飲んで、多胎児を抱える方も増えてくるということもありますので、女性、男性に関わらず、その辺の知識をもう少しきちんと広める場が必要だと思います。

会長

今の、出産、妊娠、或は不妊治療というのは医学的な部分で、これは子どもが生まれた後の子どもの栄養だとか、発育段階がどうかという、医療、保健、ヘルスの部分と子どもの心理的な子育ての部分とワンセットで考えなくてははいけません。生まれる前に、高齢期出産になるといろいろなリスクがあるということも正しく教える必要もあるし、勿論生まれた後の母子手帳等の指導もありますが、現実的に子どもの発達段階の中で、正常かどうかというのは、医学的、ヘルス的な視点が必要なので、子どものあやし方など福祉的な部

分とセットで必要になります。

委員

また抽象的なことに戻ってしまいますが、この調査から得たニーズや要望に関して、それは私自身も子育てをしていて、病後児を預かって欲しいと思う気持ちもあります。やはり子育ては、支援されなければできないような印象が、世の中に非常に蔓延してしまったという気がします。支援ももちろん大切ですが、子育てが本来はずばらしい、楽しいものだということも伝えていかなければならないのではないかと思います。前回、中高生の居場所に関するご意見がありましたが、コンビニの前でたむろする子ども達に場所を提供することも、いたし方ないこととは思いますが、家庭の中に子どもたちが居心地のいい場所を何とか作れないのだろうかと思います。思春期になればそれなりに親に反抗もしますし、大人と口をききたくないという時期はありますが、それを支えながら、見守りながら家庭で対処していくような方法といったらおかしいかもしれないですが、親になる人の精神的なものを、何とかこの行動計画の中に取り入れられないかとずっと考えています。支援の前に、その辺の精神的なものは非常に大切で、忘れてはいけないのではないかと初回から感じています。

ボランティアを支援するという点に関してですが、現在私はファミリーサポートセンターサブリーダーを、有償ではありますがボランティア活動していて、「ポップコーン」の方でもボランティア活動をしています。ちょうど2つとも府中市が初めて事業を行う時に、最初に登録したボランティアですが、その際にボランティアとしての位置づけなり定義なりが、非常にあいまいなまま入ってしまっていて、現在も2つの活動で、ボランティアとしてどこまで踏み込んだらいいのかということと、定義、位置づけがはっきりしないままスタートしたので、私はボランティアの人達をまとめる立場ではないのですが、非常に私自身は混乱している状況です。今後「ポップコーン」などを府中市が展開していくに当たっては、位置づけや定義づけをもう少しはっきりさせるか、話し合いの場を設けて頂きたいと日ごろ感じています。

地域のつながりについてですが、たまたま私の子どもが通っております学校や周辺の小学校でも、地域とのつながりをこここのところ非常に密接にしたいという保護者の意見が起こっておりまして、青少対や自治会等、保護者が非常にコミュニケーションをとろうとする動きが起きています。府中はお祭りが多いということや、伝承行事もいろいろあるということで、お年寄りを呼んで、子どもたちと交流して、なおかつ近所の小さい子のお父さん、お母さんも一緒に来て遊びませんかという動きがあります。お母さんたちというのは、お話ししたいと思います。学校で子どもたちとお年寄りが遊んでいる、そのわきでお母さんたちがお茶を飲みながら日ごろの話をするというような場を作ろうという動きがあるので、こういうことをもう少し広げる方向性があるといいと現在考えています。

会長

ありがとうございました。これは、『都市環境と子育て』という、ジェンダー論をやっている女性の方が書いている本ですが、やはり都市における子育てというのが、日本流の子育て一般ではなくて、かなり今特殊な課題になっているということで、少し本を読みます。

「大都市郊外で子育てをする女性たちが挙げた主な生活不安には、育児が思うようにいかない、家事の負担が大きい、母親としての自信が持てない、家計にゆとりがない、自分の時間が持てないなどさまざまなものがある。そこには、育児や家事の拘束時間が他の世代に比べて最も長い30代の母親たちの日ごろ感じている閉塞感や、妻や子への過剰な負担感、ゆとりのないジェンダー化された生活にゆがみがある」という分析、「こうした不安の特徴は多くの場合、夫、父親の協力、居住地での相互に支え合う近隣や母親同士、友人や親族、主に親などとの温かいつき合い、子育てサークル、保育サービスの専門家などの都市の複合的なサービスネットワークの中で解消されることがこれまでの調査からも確かめられている」ということなので、たまたま今府中市で「ポップコーン」であるとか、子どものひろば事業という形でやっていて、ニーズが多いということは、ある意味で鉱脈というか、その部分を掘り当てたから、一気にニーズが出てきている部分が相当あるだろうと思います。

先程の、子育てが正しいとか、家庭の中でぬくもりのあるとか、確かにそれはいいのですが、都市の場合それがありません。本当は母親も子どもを一生懸命かわいがりたいけど、時間も余裕もない、ストレスがたまって、虐待の一步手前みたいなところに行くから、逆にそれを第三者が、頑張っていると評価してくれないと安心できないし、或はそういう学校の場でいろいろな人と話し合うことでストレス解消するとか、そこからまたいろいろな子育てのグループが生まれていくとか、サークルが生まれていくという、今はとにかくコミュニケーションがない、とる場がない、時間、余裕、仲間がないという、「3間」というらしいですが、3つの間、空間、時間、仲間がないというのが都市部の非常に大きな問題です。コミュニティセンターや自治会の活動などがありますが、新住民はなかなかそれができないから、マイホームは立派でも地域とつながる場がありません。それを作らないと非常にストレスがたまるということは今回の調査でも出てきています。

ただ、親子が集う場で少し話を広げますと、0～2歳ぐらいの、保育園、幼稚園の就学前のあまり受け入れ先のない子どもたちを抱える母親のニーズと、小学校或は学童保育が終わった高学年、中学生のもっといろいろな活動をやりたい子どもの場というのは次元が違います。府中市の場合、文化センターや児童館は割に大きな子どもの場になっていて、小さな子どもは「ポップコーン」が受け皿になっていて、自動的に分かれています。小さな子どもを抱えた母親或は子どもが集まる場と、もう少し大きな子どもが集まる場というのは、2つニーズがあるのではと感じます。

お話のあった、家庭とか子育ての楽しさというのは、多分まだ残ってはいるのだから、それをただ家庭でやりなさいというだけではだめで、だれかがそれを認めるとか、見方を変えるような視点を与えてあげないと、なかなか変わらないのではないのでしょうか。やはり親や父親以外のいろいろな人との交流の場というのは、すごく今求められているんだと思います。

委員

だいぶ欠席しておりまして、方向が少しわからないのと、課題が多岐にわたっておりまして、自分の意見をまとめるのが大変に思います。

子育て関係・施策一覧のところ、の地域・コミュニティというところの一番下の、

子どもの居場所の下にPTAと書いてありますが、その下に、比率としたら大きいのが、小学生を対象にした放課後のボランティア、監督、コーチの皆さんの野球、サッカー、剣道、バスケットは入れるべきでないかなと思います。つまり、スポーツ団体を入れてよいのではないかと思います。

抽象的な話になりますが、府中市は箱物行政と批判する人がいますが、これにはどうしても理解ができないところがあります。そういう悪い行政のところになぜ人が集まってくるのか、そして先程もお話がありましたが、障害がある人もそうです。これは事実です。よく行政が悪いと簡単に言うのですが、仮に悪いとすればそういう施設を作りましょと決める私たちが選んだ議会が悪いということになります。単純な批判をされる方はこちらにおられる行政の方々と議会の関係、三権分立の仕組みが分っていないようです。また、自分の意見のみが正しいと考える形の批判はおかしいのではないかと私は思います。

府中市はある程度施設・設備が整備されています。今日、ある程度準備された施設設備をどのように活用、充実させていくのかと考えることが、一番手っ取り早いのではないかと思います。新しいものを作っていく、新しい仕組みを考えるためには、「意識改革が必要」である。そういう意味での「新しい」という言葉はいいと思います。既存のもの、学校もそうですが、どう活用、機能させていくかが大切です。矢崎小学校は多摩川に近いということと、農村地帯にあるということ、郷土の森を含め自然環境に恵まれている特性があります。その地域に一番やりやすい効果的な内容、事業を活性化させることが重要です。ですから、多摩川や農業とか自然、郷土の森などを活用した学びを工夫しています。

つまり、府中市でいえば、恵まれた施設や条件・特性にに合うものを伸ばしていった方がよいのではないのでしょうか。

しかし、究極には、やはり人材だと思います。どんなにいろいろな組織や団体をつくっても支え、運営していくのは人だろうと思います。近所の事例を紹介します。宅地造成で新住民が転居してきました。当然住人はごみの問題など様々な問題が出てきます。そして自治会を作ろう、入ろうということになります。自治会を敬遠する人も出てきます。そこで畑を持っている人が、自治会に入る前に、コミュニケーションを深めることが大切と考えて新住民の方に声をかけて、自分の畑を開放して共同で野菜を作る中でコミュニケーション深め、知り合いになりました。結果として自治会に入って頂いたという事例がありました。

就園前の小さな子どもを育てているお母さん方の事例です。市立の幼稚園に子どもを入れるために、文化センターに有志が集まり、正確な名前はわかりませんが、「ドングリの会」という会を作って、勿論その会から私立に行く人もいるとのことですが、自分たちで、入園の年齢に達するまで子育ての悩みや子どもの遊び場を共有しているというグループも知っております。自発的で創意に満ちとても素晴らしいことだと思います。

会長

副会長がおいでになったので、今までの議論の内容を確認しておきます。

資料8 - 1、1の保育ニーズの話ですが、求職中とだけしか書いてありませんが、これは今度東京都に報告する保育ニーズの問題もありますので、多分1つの議論に当然なり得るだろうなと思っています。私が説明した後で済みませんが、副会長さんの方からお話し

いただければと思います。

それから、0～2歳児と書きましたが、比較的の低年齢児の親子の交流の場というのが必要です。特に新住民、旧住民というあたりの交流の場、或は今子育て中の親の交流の場というのが必要ではないでしょうか。

3番目が、子育てに関する情報の一元化、集約ということで、そこに行けばわかるということと、府中市のいろいろな地域の中で隠れた子育て関係をやっている方の地域ニーズというのともわかると、新住民にとっては非常にわかりやすいだろうなという感じがします。

4番目が、小学校以上の子どもの居場所づくりということで、これは先程の児童館の絡み、或は学童保育等々、或は青少年対策委員会、青少対あたりのレベルの子どもの居場所、或は先週出たコンビニの前の子ども達の話です。

5番目が、ボランティアや民間組織との協働と書きましたが、これは、ボランティアの育成や研修体制をどうするのかということです。

6番目が、特に子育て不安という中で、医療的な部分と福祉的な部分とワンセットで考えるということです。これも特に保健師さんの資格のある人の数が多くないので、また公務員以外になかなか得られないということで、福祉は比較的人材的に確保しやすいのですが、保健師さんの確保は難しいので、どこの自治体でもなかなか共同歩調がとれない部分があります。ここを何とかする方法はないでしょうか。育児相談等についても、そこに行けばかなりの部分がわかるという、これはなかなか理想に近い形ですが、この辺りを1つたたき台として提案させて頂くということです。もしこれにまた追加する部分、文言等の修正があれば、次回でも結構ですが、ぜひご議論頂きたいと思います。

時間がありましたら、3番目の情報の話については、今日、具体的な話が少しできればと思っております。副会長宜しく申し上げます。

副会長

遅れまして申し訳ありません。

中間まとめ作成に当たっての視点について、大変よくまとめて頂いたと思いますが、もう1つぜひ入れて頂きたいのは、5ページに保育サービスのあり方についてというのがありますが、これは私の発言の要旨だと思いますが、保育所に入れる・入れない、幼稚園と保育所と違う、公立・私立、認可・認可外と書いてありますが、どうしてこのことを私が強く申し上げたいかというと、最初の回にお話ししたかと思いますが、幼稚園、保育所に通っているお子さんというのは、ほぼ100%と考えていいと思います。特に3歳以上のお子さんですと、3、4、5歳児、つまり小学校に行く前のお子さんだと、府中市でも97%が通っていると思います。ということは、ほぼ義務教育に近いような状態の就園率になると思います。ところが、例えば小学校になった場合は、府中矢崎小学校に行こうが、第二小学校に行こうが同じようなサービスですし、給食費などの料金ということですがけれども、これは公私、例えば私立小学校、私立中学校に行くという方は、希望してお金を払って行かれる方々ですから、これはご自分が選んでいるのだと思います。けれども幼稚園にしても保育所にしても、ご自分が選んで行っている方もあれば、選べずにそこに入っている方もあるのに、大いに差があるという現状は、子育て支援の大問題であると思います。

この発言の時に、当然保育園、保育所というのは国の補助金等々のいろいろな複雑な絡みがありますから、一概に高い、安いと言える問題ではないけれども、サービスというのを、支払った分に対する対価と考えるならば、まるで不平等、不公平な状態があるということです。ですから、その時にも発言をいたしました、小学校に行く前のお子さんたちの大きな幹だと思えます。これは、障害があるとか、お父さんやお母さんがいないとか、いろいろなご事情の方というのはありますし、そういう方々を切り捨てるとか、無視するという意味では全くありません。ただ、90%以上の方々が必ず小学校に行く前にそういう状態に入るのに、不公平なり不平等を見逃しておくというのは、新しい世代の行動計画というのにも欠ける部分があるのではないかと思いますので、その視点はぜひ入れて頂きたいと思えます。

中間まとめですから、いずれ最後の方まで、私は必ずこのお話はいたしますし、もう少し具体的に数字や補助金や実質支払い額等で、きちんとデータを出した上で比較、検討をしたいと思っておりますし、また事務局にもお願いをしたいと思っております。ただ情緒的なお話ではなく、まるで不公平なお話、特に望まずに不公平を受けている方があるというのは認識をして頂ければと思えますし、その視点はぜひ入れて頂きたいと思えます。

北場会長のお作り頂いたこの1から6の間で、今日は子育てに関する情報の集約、各地域での情報の入手というようなことを話せというようなことでありました。文化センターを利用して、NPOの皆さん、NPOというのは既存のものを利用するか、もしくはそれに合ったもの、当然NPOは、今ある方々というのは、目的を持って組織を作っている訳ですから、行政の下請になるためにある訳ではありません。これに合わせてくれというのはなかなか難しい部分もあるかもしれませんが、用途に合った、意図に合ったようなNPOをもしかしたら作ってもいいのではないかなという視点で少しお話しします。

私がイメージしているのは、府中駅にある旅行代理店の京王観光のような感じです。その窓口に行きますと、例えば「私のうちの子どもは3歳だけど、言葉が遅いようなのでどうしたらいいでしょう」と言うと、「平田さん、それは府中の医療センターのこういう窓口に行ってください。電話番号はこれですよ、地図はこれですよ。その上で、もし行かれるなら向こうの都合を聞いてあげますね」と言って電話をしてくれて、「平田さんという人が、お子さんの言葉の問題でお悩みですけれども、少し電話をかわって頂けますか」なんていうような情報なり、ある種もう一步踏み込んだ親切というか、ぼいと紙を渡すというのではなく、少し踏み込んだ親切をしてあげて、その方が、医療センターに行きますというと、もう電話で話が通じていて、「この間のお話の方ですね」というように、つまり旅行代理店のように、いろいろな情報を教えてくれたりするようなサービスを各地域でできるといいのではないのでしょうか。

なおかつNPOというお話をしましたのは、できれば地域の方々に、地域のことに関する関心のある方々が、うちではこんなことをやっていますというような情報も吸い上げたり、もしくは発信したりするような形がとれるといいのではないのでしょうか。その程度でしたら、文化センターにパソコンがあって、スペースがあって、地域から選ばれた、もしくはボランティア的なお気持ちを持った事業体として活動できる、つまりNPOの人達がそれをお手伝いするというような感じができるといいのではないのでしょうか。名前は、「子育て何でも情報窓口」とか、そんなような感じにして、まずは気軽にここに来てくだ

さいというような窓口を作ってみたらどうかと思います。その情報を収集した上で、中央情報センターといったセンターがありまして、各地域の情報を集めた上で、また各文化センターにある子育て情報窓口を発信する。またそこにいる方々は、地域のいろいろな会合とか情報を通して、また集約する場所に情報を流すというような機能があると、随分と上の2番目の、孤立を防ぐための情報を与えることはまずはできるのではというようなイメージを持っておりますのでお話しいたしました。

会長

今の、最初にお話のあった保育の話について少しコメントさせていただきますと、認可保育所を利用する場合になぜ安いのか、特に所得の低い方は保育料ゼロというケースもあり得る訳です。比較的安いのはなぜかということ、措置費という税金が入っているからです。でも、同じ保育所でも、認可外の保育所或は一時保育のような保育所については、あまり税金が入らないので高くなります。幼稚園も自由契約ですから高くなります。

今、都市部で待機児の多いところ、新聞で知ったのですが、例えば新座市などは、認可保育所を作るとお金がかかるということと、保育ニーズはかなり水ものの部分があり、保育所を沢山作るとまた外から人が来るということで、できるだけ認可外の施設を利用しようということで、そのかわり補助金を与えるということです。認可外の保育所ですから補助金を与える必要はないのですが、認可保育所を作るより、補助金を与えるような動きがあります。

また、幼保の一元化ということで、港区では、幼稚園対象児童にも、例えば0～2歳児の保育所に通わせて、その分保育所と同じような補助金を与えるという動きをやっているところがあります。今まで補助金を出してないところに補助金を出すと、財政負担が増えますが、逆に今少し補助金を出した分を減らすかということなので、そのあたりは財政の問題はありますけれども、そういう方法をとらないとなかなか平等化というのが図れません。認可保育所に入れる人はいいけど、入れない人の負担が非常に大きいという不平等が発生するのは事実です。でもこれは、かなり財政的な負担がかさむ話があるということで、少しは理解する必要があると思います。

それと今、副会長より、子育ての情報の話をして頂きましたので、この前もこの議論の中で、文化センターの情報の窓口がいいか、或は小学校の方がいいのかという議論がありました。それと、例えば1カ所でもいいのか、多数あればいいのか、また、情報の質としてどういう情報を持つのか、それと今のお話ですと、相談体制も合わせてというようなお話もありました。それと、担い手として行政がやるのか、ボランティアがどこまでやるのかという幾つかの議論がありますが、結局いろいろな箱物があるけれども、新住民の方々は情報をなかなかご存じない状況です。子育て関係の支援施策というのは沢山あるのだけれども、市役所の中でもいろいろな担当課に分かれています。その情報を一元化しようというお話が出てくるのですが、具体的に府中市の場合、どこで、誰が、どんな情報を扱ったらいいのかというお話です。副会長から、かなり具体的な旅行代理店のようなというイメージが出ましたけれども、もしこの点に関してご意見がありましたらぜひ、こんな方向がいいとか、こんなことができるんじゃないかという議論をして頂ければと思います。

委員

今、副会長から、センターのようなものを作ろうという意見がありましたが、具体的には、70%以上の幼児が、幼稚園や保育園に所属している訳です。所属していて、そして子育てに関しての不安を訴える、訴えたら、その段階で保母さんなどそういう人達が相談に乗ってあげればよいのではないのでしょうか。

会長

どちらかという問題は小さい方です。3歳児以上になると、ほとんどが幼稚園、保育園に入っているから、かなり専門家のアドバイスが聞けるのですが、0～2歳児が問題だということです。

委員

0歳児に限定したお話ですか。

会長

どちらかというそちらの方にウエートがあります。

委員

保育園に所属していない子どもということですか。

副会長

そうです。3歳児健診と言いましたが、大体3歳児健診を受けてから幼稚園に入る子どもいますが、受けなくて、まだ年が満たないで入る子ども、早生まれの子どもですから、そういうのでお話ししました。

委員

入ってきた子どもについては、年齢が低くても、園の保育士などがいらっしゃるんじゃないですか。

副会長

入ってきたお子さんに関しては、十分に相談も、お答えもできますし、情報提供もできます。入る前と思って頂いた方がいいと思います。

会長

逆に言いますと、ここの部分がかなり育児不安ということで、特に0～2歳児を抱えている単独世帯、ひとり親世帯とか核家族の育児不安が非常に大きいということと、自由記述でもこの育児不安が多く出ていました。具体的には、「親子が集える場が欲しい」というような自由意見が240人、これは就学前ですから、1,700人ぐらいの中の240人がそうコメントしているということで、かなり潜在的なニーズがあるというふうに考えております。その部分の保育ニーズというか、どこに聞けばいいのかわからないという、子

育てに関する情報開示や提供に関しても、103 人の方が自由記述で書いていらっしゃるということなので、どちらかというとい低年齢児を抱えている親子というイメージで考えています。

委員

一般的な発想として、幼児を育てる母親がパソコンが使える使えないは、別の問題と考えても、子育ての相談はどこに行ったらよいかというように検索していくものなのか。例えば、保健所に聞くとか、保健所の中に、今お話の、NPOなど、具体的には結構いろいろな活動団体があるかもしれないですがわかりません。否定はいたしません。大いにやれるのだったらやってよいと思います。でも、大変急に困っている人がいるのであれば、徐々に作っていくことと並行して、保健所のPR、多摩児童相談所や多摩療育園のアピールをしたらよいのではないのでしょうか。

委員

多摩療育園など、そういうところのアピールをしながら、副会長の言うようなものを作っていくてもよいのではないかと思います。

副会長

少し言葉が足りなかったのですが、うちの幼稚園に入園テスト前に、言葉が遅いとか、この子心配だとか、ご相談に見えるお母さんがいらっしゃるが、そういう方々は、例えば、医療センター、教育センター、多摩療育園、社会福祉協議会の行っている「あゆの子」などを閉ざして、知ろうとしない部分があります。自分の子どもに障害があるとしても、見ないようにしている部分が結構あります。こういうところに行く時ちゃんと相談に乗ってくれますよというような、少し背中を押してあげるようなことができるといいのではという気持ちです。

委員

私の経験から、赤ちゃんができたらず必ず保健所に行きますが、そこで母子手帳をもらったり、私も昔のことですからはっきりは覚えてませんが、その続きで出産してから1カ月目に保健師が訪問しているのでしょうか。今はしてないのでしょうか。

会長

自宅に訪問するのですか。

副会長

昔は行っていました。

委員

自宅に訪問して、お母さんの顔を見たり、子どもの顔を見たりしていました。公園で会ったお母さんに聞いてみたら、あるようなことは言っていました、それで終わりになっ

てしまうからというのを聞きました。

会長

府中市は保健所をお持ちですか。それとも東京都の保健所ですか。

委員

東京都のですか。

会長

保健所を持っている市というのは少ないです。だから逆に言えば市の行政ではありません。

委員

1カ月後、お母さんたちは本当に孤独に入るのだと思います。それをサポートできるのが市の保健所ではないでしょうか。

会長

6カ月とか1歳半とかありますが。

委員

それは、保健所に行くのです。

委員

今は府中市の健康推進課に移管されました。

会長

逆に言えば、いわゆる保健所的な機能は、府中市の医療センターは1カ所しかない訳です。

委員

実際にはかかりつけの医者もいるでしょう。妊婦が医者を差し置いて他に相談するかどうかが疑問です。相談の窓口は、保育園、幼稚園の先生や医者や保健所などでもやっていますと大いにピアールの必要があります。しかし、保健所はいやだとか、幼稚園や保育園に相談したら入れてもらえないのではないかという不安から相談ができない人がいるのであれば問題です。

委員

昔は大家族で暮らしてますから、必ずサポートの目がありました。別に資格云々とか医者がと言われると、それは絶対無理ですが、その手前はできるのでしょうか。そこは素人でよくわからないのですが、それは行政の方で、ボランティアという訳にはいかないの

しょうか。

委員

お話の方向が全体の流れとしていいかどうか少し疑問に思います。

会長

行政の方で、子育てに関する情報というのは、いわゆる保育士が担当する部分と、児童関係の保健師の相談事業と、府中市では現実にごくどどのようにやっているのか、議論の前提条件としてご説明いただけますか。

子育て支援課長

母子保健手帳は、府中市では、窓口と医療センターで受け取ることができます。医療センターに行きますと、保健師がおりますので、例えば医療センターで受ける場合は、手があいていれば保健師がお母さんには声をかけながら交付ができます。本当はみんな医療センターにとりに来てくれればいいなという思いがあります。ただ、全部来られたらとても無理で、窓口と同じようにただ渡すだけになってしまうのが現在の状況です。

母子保健業務は、保健所から何年か前に移管されて、市で行っています。母子保健の保健師が、地区ごとに担当を置いて、今7～8名が巡回しております。私の時の記憶だと、かなり以前ですが、高齢出産ということもあって、保健所からも来てくれたし、連絡をすると来てくれるサービスもありました。今も、多分全部は回れないのかもしれませんが、そういうご案内は行って、母子保健の方が巡回で訪問しているという状況はあると思います。

母子保健では、先程の3～4カ月健診と1歳6カ月児健診をやっていますが、未受診の方がかなりいらっしゃいます。その方たちをどうフォローしていくかということで、今後、未受診者対策に力を入れていくのですが、それについて今、未受診者には、はがきでアンケートを送って、その回答内容を見て、少し危ないというようなところは積極的に訪問をしていくという形で、まだ全部ローラー式に訪問ができる状態にはなっていないというような状況だと思います。

会長

保健師は、数は増えていますが、ほとんど行政に就職される方が多いので、民間はなかなかいません。ただ、産婦人科関係の看護師であれば少しはできるかなという感じもするので、人材を上手く確保できればということですが、そう簡単ではないだろうという気はします。情報がどこにあってというような、専門機関を紹介するとか、いろいろな相談を受けて、適切なアドバイスをしたり、あるいは副会長がおっしゃったように、人的関係ができれば、今度こういう人が行きますからよろしくという言葉添えてあげることもできるかとは思っています。

副会長

現実問題として、例えば、2歳のお子さんを持っているお母さんが、少し言葉が遅いという悩みと、保育園に入れたいという2つの相談に市役所に来ると、1つの課では済みま

せん。保育園に行きたいというのは子育て支援課ですが、言葉が遅いというのは医療センターに行かなくてはならないのです。保育園に紹介されて、面接を受けに行ったら、少し言葉が遅いみただから、医療センターに行ってみてと言われて、今度「あゆの子」に入れて下さいと言うと、主管は社会福祉協議会になります。ですからまた窓口が違います。私が、1つの窓口でわかった方がいいというのはそういう意味です。少し条件が悪くなったり、その上にひとり親家庭であったりとか、そういう条件がついてくると、もっといろいろな課に行かなくてはならなくなるのではないのでしょうか。

会長

経済的な支援の相談もあるでしょう。

副会長

そうすると、市役所に来ただけでは済まないで、いろいろなところに行ったり来たりしなくてはならない事態があって、初めて府中に来て、周りに知っている人もあまりいない状況でそんなことになるとうちが本当につらくなるのではないかと思います。

委員

保育園に入りたいという相談がほとんどで私どもの方にこられます。たまに言葉のおくれだとか発達のおくれについての質問もございますが、入園相談をしているうちに出てくるということはあります。

会長

今のお話を聞いて、行政の大ベテランがいないとアドバイスするだけでも大変でしょう。

副会長

ソフトの作り方だと思います。作ればできると思います。

会長

医者診断も、今こうすればこういうことがあり得るといのがすぐ出てきますから。

副会長

そこは情報を与えるだけですから。

委員

質問よろしいですか。今、行政に市民相談室がありますが、どういう使われ方をしているのでしょうか。一般的にはどういう使われ方をして、どの程度に稼働しているのでしょうか。もう一つ、先程平田副会長がおっしゃったように、情報の発信をして、どこに行けばという振り分けを行う程度のものを想定されていると思うのですが、役所の仕事は縦割りで横はつながってないから、使う側の市民、国民からは使いにくいという、そんな話とつながると思うのですが、実際それを直そうとした時に可能なのでしょうか。

確かに私たちの仕事も、介助の時には、例えば、高齢者福祉課や、障害を持って重なっていると、障害福祉課にも行くし、いろいろな行き先があるのですが、そういう時に、障害があったり高齢だったりという方は、なかなか出向くことができないから、私たちが代行して調べることがあります。それから障害者の問題などで、自己申告で使える制度が多いのですが、それを知らない方がいて、アドバイスして書類を取り寄せてあげたりとかしますが、使いにくいと思います。それからパソコンが置ければ、インターネットを調べたり、ボランティアのホームページを見れば、いろいろなことがわかるのですが、それができない人をどうバックアップしていくかということが大事だと思います。市民相談室はいつも興味深く思って、痛感はしていますが、どの程度利用されているのかというのを少しお答え頂けると参考になるかと思います。

子育て支援課長

市民相談室というのは1階にありまして、市民相談と広聴という2つの担当があります。広聴というのは、広く聴くという広聴です。

広聴というのは、仕組みとしては、市長への手紙というようなものがあって、いろいろなご要望やご意見などを担当へ回して、さらに市長に回して回答を出すということです。また、すぐやるカードがあって、すぐ所管課へ回して処理します。市民相談というのは、行政相談員、人権擁護員など各委員がいて、それから弁護士を入れた専門の相談などを行っています。オンブズマンも置いています。市民相談というところは大体曜日が決まっています。数としては、広聴という部分ではかなりあります。毎週1回まとめたものが報告されますが、週に10件ぐらいは来ると思います。

委員

ありがとうございました。

委員

実際に私たちのところに電話がある際には、相談業務から始まります。その際にはいろいろなサービスを知っていないと情報提供できない訳ですから、最終的に私たちがサービスができなくてもいいと思っておりますし、そこを絞り込むまでに相当お話をさせて頂いたり、聞き出しをさせて頂いたり、訪問して終わる場合もあります。契約して何年も利用されない方も多いです。というところでは、本当に各窓口、各課の情報を知っていなければいけません。最終的に私たちはサービスを提供しないで済むような形を望んでおりますし、それまでに相談業務で済めばそれでいいと思っております。実際にそれは何件かNPOで、こうやって看板を掲げている限り、いろいろな部分で、親が介護保険適用、子どもは障害児だというようなことをケアマネージャーにつなげたり、障害者の方の福祉課につなげたり、それでできないことを私たちがやるという部分を整理していく訳ですから、それは普段させて頂いていると思っております。

会長

介護保険の場合にはケアマネージャー制度というのができて、いろいろな利用法を聞き

ながら在宅サービス、施設サービスにつなげるという役割ができましたが、子育てに関しては、例えば、保育所などが、支援サービスなら制度的にできるという部分もあるでしょうが、保育以外の虐待や子どもの年齢、或は病気の場合もあるから介護保険に比べて範囲が広いです。その意味で、子どもの分野がありません。やはりケアマネージャーのような役割で話を聞きながら、どういうサービスが必要なのか、家族の状況などを聞きながら、情報を聞きながらどういうサービスが必要なのかというのを組み立てながら、それを相手に伝えて、相手に促すというようなところまで行けたらいいのではと思います。とりあえずまず情報を集めて、お伝えをして、さらに進めば多分その相談まで行くのかもしれない。研修をして、そういう人材を育てていかなければいけません。ボランティアの方でできるのか、非常勤の職員の形をとらなきゃいけないのか、或はそういうしかるべき団体があれば委託できるのかどうかを含めて考えていなくてはと思います。

先程お話があったように、例えば、幼稚園に上がる前のお子さんにこういうことをやっているというようなところがあるというような、地域情報も集められたらいいのではないのでしょうか。

委員

相談の話で、相談を受けたあと、それがフィードバックしてこないものですから、その方がどうなったのか、私どもの知識になりません。相談されても、話を聞いてくるだけの作業になってしまうという気がします。

委員

ここに府中市子育て支援本部、子育て支援課推進係とありますが、今のようなお話の相談事例は府中市子育て支援本部、子育て支援課推進係の方に届かないのでしょうか。それにもう1つ、紹介したものは、役所などに大体行くと思いますが、相談窓口の担当者から「あなたが紹介された事例はこういうふうにやりましたよ。」と連絡を頂ければ、情報が蓄積されて、有効な活動ができるのではないかと思います。

会長

今、介護保険の場合は、在宅介護支援センターがありまして、在宅介護支援センターの7割～8割は居宅サービスでホームヘルプ事業をやっている事業者でもあります。まさにそういう各家庭のカルテを持っております。つまり、この家庭はどのような家庭であって、どのようなお年寄りが出て、どのような介護サービスを受けているかということとずっと記録しています。1人ひとりの戸籍みたいなものをお持ちです。この家庭がどのような形で動いて、どのようなニーズが発生し、どのようなサービスをやったのか全部わかります。つまり各個別家庭ごとに、情報の一元化をやっているのです。児童の場合は全くそれが無いし、ばらばらで、関わったところは知っているが、その家族なり子どもをつなげて見た時にどうなったか誰もわかりません。とりあえずは、情報を一元化して提供するということがまずスタートラインでしょう。今、いろいろな専門機関が関わっている割に、どのようなサービスが行われたのかというのは意外に見えていません。

一元化をとりあえずやってみて、多分数が来たらものすごく大変になるかもしれませんが、

試行的にやる価値はあると思います。市役所で一元化をやろうとしたら完全にパンクします。だから地域で分散化して、地域情報も含めてある程度顔見知りになるというような関係の中でやっていかなければと思います。それで文化センターという、中学校区単位というのが1つ出てきて、文化センターのいろいろな歴史的な経緯の中で、かつてはそういうことをやっていた部分、いろいろな行政の事務をやっていたという部分があるというお話ですので、それと、場所的に歩いて行けるところに相談センターがあると、何か次の展開が見えてくるのではと思います。

委員

プライバシーの問題が非常に難しくなってきました。

会長

ですから、ボランティアの方がどこまで入って頂けるかということと、民間でやる場合に委託するとしても、在介センターもそうですが、当然契約の中で、個人情報を出してはいけないという契約の中に1項目うたっているはず。ほとんど府中市の場合、在介センターは法人委託ですから、そういう部分も法人に委託をするという手もあるかもしれないし、或はNPOや行政の非常勤の方が関わって、情報をしっかり管理しながら、ボランティアの方に関わって頂くという手法もあるのかもしれませんが。行政の方で、コメントはございますか。

子育て支援課長

今の情報の関係ですか、地域の情報の集約化というお話の中で、現状、私どもの計画の中ではそういった視点がございません。これまでの説明の中でお話しましたが、今、自分達が考えたのは、どうすればわかりやすくなるかということで、中心部に足の運びやすい、交通の至便な場所に、情報を集約化した機能、遊び場機能、相談機能を持ったものを1カ所作ろうということで、現在準備をしています。今までは中核センターという言い方をしていましたが、新たな府中市の子ども家庭支援センターという位置づけをして作りつつあります。

例えば、ひろば事業も、毎日、朝から夕方までできますので、市民の要望もくむことができるのですが、やはり地域における、地域の集まれる場所も必要だろうということで、これは今の「ポップコーン」事業をもっと拡大していくべきだろうと思っております。ただ、情報という部分を切り離して見るという視点は、正直今まではございませんでした。「ポップコーン」などひろば事業の中で、必要な方に必要な情報を伝えていけるだろうということで、あえて固定的な情報機能という視点は、今まではなかったという状況でございます。

会長

あと何かございますか。

委員

「ポップコーン」での情報機能とおっしゃいましたが、3年間「ポップコーン」のボランティアとして携わってきて、きちんとした研修のようなものは今まで受けた記憶がございませんので、今後して下さるおつもりなのでしょうか。情報機能としての「ポップコーン」は、今まではさほど気にしていなかったように思います。

会長

今まで「ポップコーン」はやっていなかった訳でしょうか。

委員

やっておりません。

会長

文化センターの「ポップコーン」なんでしょうか。

委員

私は今総合体育館という場所と、それから白糸台の学童の2カ所でやっております。

会長

多分「ポップコーン」などの親子の交流の場ができれば、そこでいろいろな口コミ情報やお互いに情報交換する中で、こういうことを自分達もやりましょうという自然の流れで、情報交換が行われたり、口コミで情報交換が行われたりというのは多分あるでしょう。それで十分とは言わないけれど、中央センターだけでいいという、行政としては全然お考えはないのでしょうか。

この議論の中で、むしろそういう場がもっと歩いて行けるようなところにあった方がいいのではないのでしょうか。「ポップコーン」ですら6カ所しかなくて、なかなか行けません。もっと近いところにとすると中学校区で文化センターというのが、今までいろいろな流れの中で比較的住民にも認知されているし、行きやすいのではないかということでそう言っているだけの話なので、場所も本当にどこがいいかというのは議論をもっとしなければいけません。

委員

相談を受けた場合、どこに相談をつなげばいいのかという情報が、ボランティア側に今まではあまりなかったものですから、その辺を今後どうしていくのか少し不安になりました。

会長

もしそういうことになれば、当然マニュアルか何かを作って、研修するようなことが必要になります。

子育て支援課長

少し誤解をされているようです。今我々は、「ポップコーン」のボランティアにそういうことを求めているという意味ではありません。現実にそういうことはしておりません。ただ、ひろばに集まった方がいろいろな相談を受けるのだらうということです。それは現状、ボランティアをお願いしているのではなくて、指導員や場所によっては所長がいて、そういう行政の職員を置いておりますので、問題なり質問を受けた時にそれが答えられる場であるという、そういう意味で少しお話しをしました。情報提供機能というようなものではありません。

委員

今の説明で了解いたしました。

子育て支援本部長

情報提供機能ですとか、インフォメーション機能というのですが、こういうのをご覧になったことはおありでしょうか。お配りをしようという努力は私どもはしております。この中には、一通り行政が把握し得る限りの子育て情報は入れているつもりです。電話をなさるなり、お出向きになるなりということがあるかと思えます。

複合的に重なった場合、一ヶ所で済まないところをどうするかという部分でいろいろ大変なところがおありかと思えます。これは少し逆に言ってしまいますと、最終的に情報の一元化、或はインフォメーションの一元化ということはできましても、結局実施するところは、ばらばらになってしまいます。具体的な相談事というのはそれぞれの箇所へ行って頂かないと、無理なのではという気が致します。

そこで1つのヒントですが、先程副会長がおっしゃったように、そこへ行くまでの肩を押してあげる、そのところはこれから十分考えていかななくてはいけないかなと思っています。情報の提供部分については、先程の市民相談室でも、ある程度はこういうものを見ながらご案内ができます。できますけれども、その内容についてどうかとその場で聞かれた時には、「済みません、こちらに行ってください」としか今のところは言えません。今後、私たちが考えているのは、新しい子育て支援センターの中では、そういったインフォメーションからコーディネートというのでしょうか、その部分がそこで少しできるといいと考えています。それがもしいろいろな形で地域へ分散しなければいけないのでしたら、やはりその方も考えていかななくてはいけないと思います。皆様のご意見を伺いたいと思います。

私たちは、ご相談に見える時どういう形かなと考えます。例えば、お近くの文化センターにそういったところがあるから、そこへ出向いてみようという方も、勿論いらっしゃるでしょうし、これは失礼かもしれませんが、大概はまず電話でもしてみようというお考えのところがあるのではないのでしょうか。子育ての総合相談というのをどこかで聞いたことがあります。もとりあえずそこへ電話してみようと、そこから話が始まるような気が致します。そこである程度道筋を立ててお話を進めていけば、当面は間に合うのではという感じがしているのですが、それ以上に、先程の情報収集機能も含めて、地域分散というのも考えなければいけないのでしたら、そういったところも今後の課題にしていきたいと思っております。その辺のご意見をお聞かせ願いたいと思います。

会長

これに関しては、今回のニーズ調査の自由記述欄の中で、子育てに関する情報開示、提供というところで、いろいろ議論がある訳です。今のたまたま箱についても、或は府中市の広報についても、いろいろなものをやっているのではないかという議論はあったけれども、知らない人がいるので、プッシュの機能が必要なのではないかというような議論が出てきました。特に新住民の方はこれだけあるのに、それを意外に知らない方が多いのでプッシュしてあげないといけません。これだけのものを府中市はやっているのに、何で必要だというのを議論されたと思います。

委員

府中市が行っている情報提供の事実を言っただけで、私は必要ないとは言っておりませんので、その辺は誤解のないようお願いいたします。私は事実を言っただけです。

会長

当然これは行政効率の問題があるので、市民が足しげく通える場でないと、わざわざそのために交通費がかかると電話で終わってしまうし、そうすると電話が鳴りっ放しみたいな話になります。市民が行くついでに少し聞けるようなという、あらかじめ流れができているところにそういうものがあると、比較的人を集めるコストや宣伝するコストも安く済むし、利用する方も非常に気軽にできます。つまり市民が自由に生きている情報を交換する場に、行政が少し足をひっかけられないかということです。地域を知らない人間が勝手に言っているのですが、そういう場として文化センターが考えられます。「ポップコーン」をこれから学童保育の午前中にやるとすれば、そちらの方がいいのかもしれませんが、でも、それ以外にいろいろな形で住民の方が出入りする場があると、ついでみたいな形ができるのではないのでしょうか。

委員

子ども家庭支援センターでも相談を多数受けていらっしゃるの、電話相談もたくさん受けていると思います。

会長

一言何か参考になるようなコメントはございますか。

委員

今、いろいろなお話を聞いていて、人をどう育てていくかということがあって、一度に広げてそれができるかという問題が一番大きいと思います。変な話ですが、「しらとり」でさせて頂いて、長い期間かけて育てていくというベースがあるので、あちこちに作るから、例えば「しらとり」で育成して、作って出して下さいと言われても、自信は全くありません。ですからある程度の年限があって、そこにやって下さる方をまず募集して、その方たちに経験を踏ませていかないととても難しいです。

会長

別に、「しらとり」から人を供給してくれということではないんです。

委員

言っていることはわかります。でもそういうふうに感じてしまいます。

会長

マンパワーの養成もそうですが、これだけニーズがあるということです。

委員

そちらの観点からいけば、例えば、「しらとり」でもっと広報すればいいという話は何度か言われましたし、また市の方からも言われていることもあります。ただ、相談電話の中で、府中に引っ越してきて友達ができないのでどこか紹介して下さいと言われた時に、ご紹介をさせて頂くと、それを1回出してしまうと、「ポップコーン」と同じで200組来られたら困るし、逆に、年齢制限をしたくないという方針があって、それをやるためにはある程度的人数で抑えないととても成り立ちません。80組になったら成り立ちません。ですから、他の人には申し訳ないという部分があるのですが、今「ポップコーン」がやって下さっているんで、それに甘えて、今うちに来て下さっている方にとっては、なるべく他にしない方がいいです。それでも毎回20組ぐらいの新しい方が入れかわり来ていると担当の者は言っていますから、それで随時口コミでは広がっていると思います。

会長

長野県の須坂市のお話を紹介しましたが、相談というところまで一気にいくのはなかなか大変かもしれないのですが、例えば、行政のたまたま箱や市の広報など、そういう情報とともに、市の広報にも載らないような地域情報を一緒に提供してあげるということでも、機会づくりはできるのではないのでしょうか。そういう人の集まる場所で生きた情報を正確に伝えて、行政から何か受けるだけではなくて、地域の人達が自主的に、地域情報を市民に発する場という意味での掲示板機能でも最初は十分ではと思います。そして、中央の中核施設で養成ができれば、順次相談員を派遣することになるかもしれませんが、まずいろいろな地域情報、地域の資源の活動を、地域にしっかり発信する場として、逆に言えば、本当に地元の自治会、社協という形で全てのことを張りつけることは難しいかもしれないけど、民生委員、その地域の保育園、幼稚園をお願いをして情報を集めたり、多分そういう意味では、人の流れの中での情報を伝えて掲示板に掲げるだけでもいいのかもしれない。一元化というけれども、具体的に人の話になるとなかなか難しいのではないのでしょうか。子育て相談のところは、正直言って確かに難しいと思います。

委員

一番おわかりなのは、児童委員ではと思います。

委員

今は事業も随分早く変わるものもありますし、私達も書類を毎月頂いて、その勉強をするのが大変です。私も田口委員と同じように、本当に一元化といったら、事業内容も変わってきますし、多分大変だろうと思います。

会長

子育て支援の情報は、本当に範囲が広いので、一元化という言葉は簡単ですが、全ての人に精通している人を養成するのは大変です。例えば、イベントなどの情報を流すだけでもいいのかもしれませんが。最初から全て何もかもということはなかなか難しいし、行政情報は本当にいろいろな届出書や証明書などを持って来て下さいというところまで言わなければなりません。大変なので、例えば、催し物や健診があるという行政情報と、それから地域での行事を、オープンのスペースを作って、地域の人に呼びかけて情報を出してもらおうという、そういう機能だけでもいいのかもしれませんが。別に行政の人でなくても、たまたま箱の情報と地域情報を集める人がいれば十分できると思います。

副会長

子育てのたまたま箱もありますし、市のホームページもあるし、広報を見ればいろいろな講座など出ています。でもアンケートを見れば、2番にあるように、0～2歳児の母親の孤立、育児不安、情報がわからないというようなことが現実としてあります。ということは、今までやってきたことは、効く人には効くけれど、効かない人には効かないということになります。

私は旅行代理店のようなイメージでと言いましたけれども、それがいいか悪いかなんていうことではなくて、ある意味、市役所は情報センターです。ここに来ればほとんど済むというのは誰でもわかっています。それでもやはり不安があったり教えて欲しいということは、今のままでは機能していない部分があるという認識を持っているのでこういう話をしているのです。ですから、こういうアンケートに回答した人を、自分で調べろという議論の中で無視するか、改善していくかのどちらかだと思います。これだけやっているから要らないというならば、もうこの議論はこれで終わりでいいと思います。やはり必要ならばきちんとやっていかないといいけません。

特に中核の子育て支援センターを作るとした場合のお話だと、0～2歳児の母親の孤立を防ぐための親子交流の場の増設ということを考えたら、みんな来てしまったら収容できませんし、ならば地域地域で行きやすいところに、文化センターが適当かどうかはわかりませんが、収容能力もあるだろうという発想でお話をしているのであって、現状ある場所を、使える人はもっと使いなさいと言ってしまうのであれば、もうこれはおしまいではないかという問いかけです。

委員

文化センターという場があっても、やはりそこが魅力的な場でないと、人が集まらないと思います。箱物も勿論用意しなければいけないけれども、そこにいる人次第だと私は思いますから、その育成が大切です。そこに行けば話を聞いてくれる、聞いてもらうだけ

でもだいが子育ての不安は消えるということが多いと思います。ボランティアとして自発的に誰か立ち上がってくれるだろうとか、自然発生的にNPOができるだろうではなくて、どうしてもそこにはお金が絶対かかりますから、いろいろな意味の仕掛けづくりのところをしっかりと市は考えて頂きたいと思います。

会長

逆に言えば、子育て支援の団体に対する支援のお話だと思います。自由記述の中で、「育児サークルに入りたいと思った時に、子育てのたまたま箱に載っているものくらいしか情報がなくて困りました」、「文化センターやグリーンプラザを使用しているサークルはもっとたくさんあるはずなので、市内のサークル情報が全てわかる冊子があるといい」というご意見がありました。このようなことは多分行政ではできません。それは、本当にボランティアがやれば情報は集まります。そういう情報を下さいという発信をすれば、もしかしたら、じゃあ出してみようかということになるかもしれない。そういう情報の流れができたらいろいろな使い方ができると思います。

委員

地域にどんなサークルがあるか情報を集めることはできても、おのおのの活動内容を自分なりにきちんと理解していないと、相談された時に対応できません。大量の情報をボランティアやNPOが全て理解するというのはすごく難しいことかと思えます。

会長

単なる情報提供、責任を負わないで情報提供するという部分といろいろなやり方があるので、例えば、それがボランティアでやるのか、行政がボランティアを雇ってやるとなれば、最終的には行政の責任になりますから、情報源をしっかりと確認をしないといけません。逆に言えば、情報は自己責任で、これは行政がやるもの、これは団体がやるものという形で情報提供する、掲示板というのは多分そういうことだと思います。えせ情報を流して行政はけしからんとか、そんなものを市民センターの掲示板に掲載するのはけしからんという議論も出てくるかもしれません。こういう地域情報をちゃんと伝達して、いい地域情報を伝えるのは誰の責任かということです。それこそ体験した人が、これは保証するよというようなお墨つきがあって掲示するという形にするということもあるかもしれません。

委員

情報の提供ということに絞りますが、パソコンにそういう新しい情報を入れ、児童館などに精通した人を1人置いて、それを開示して紹介するというのではだめなんでしょうか。

会長

勿論インターネットのホームページでやることも簡単にできます。

委員

自分でできない人もいらっしゃるのでは、そこで相談まで乗れないとだめなのではないでしょうか。

会長

ホームページを立ち上げればできない訳ではないですが、マンパワーがあれば簡単です。ITを教えるNPOがあるようですから、そこが無償でやってくれれば非常に簡単な話です。ホームページを作って、そこにアクセスすれば最新の情報が常に更新できている、要は、情報を更新するのが面倒くさいんです。

委員

そうすると、児童館機能も少しレベルアップになると思います。府中市はいろいろあるんですが、魅力あるというか、子ども達が集まる、おもしろそうだから行ってみようという児童館になって欲しいと思います。

会長

ただ文字で活動内容を伝えてもわかりにくいので、例えば、先週はこんなことをやりましたという絵があればすごく楽しそうな雰囲気は伝わります。

委員

子ども達は口コミ情報で、わっと集まると思います。それからあと児童館が活性化しないのは、やはり学童クラブが離れているからだだと思います。私は他市のも見学に行っていますが、だいたい児童館で、学童の子も自宅から遊びに来る子も一緒になって遊んでいます。調布市、国分寺もそうです。府中の場合は、学童は学童で、学校のそばに場所を確保してそこで遊んでいますから、学童クラブの子と在宅の子とが、まざり合って遊ぶということは、5時～6時まではない訳です。そこが、活性化しない一因かと思います。

会長

今のお話を聞いていると、学童クラブと児童館と、つまり今は「ポップコーン」でつなげようとしている訳です。午前中「ポップコーン」でやって、午後は学童クラブ、そうすると同じ場所が使えます。学童クラブと児童館をセットにした方がいいというお話です。

委員

他市ではそういうふうになっているところが多いというだけです。

委員

学童といったら小学校1年生から3年生までです。

委員

児童館も大体そうです。

委員

学童は働いている保護者が責任を持って子どもをお願いしますという施設ですが、児童

館は、時間があるから遊びに行く場であるということです。今の事例で一緒になっているというところは、府中市の学童のように責任を持って預かってお返しするというところはありません。

委員

私は調布市の国領に行ったのですが、スペースがちゃんと分かれていて、バスケットコートなどは一緒ですから、そこで学童の子も来て遊ぶし、自宅から来た子も一緒に遊んで、多分5時になったら学童クラブのスペースに帰って、自宅から来た子はおうちへ帰ると思います。

委員

府中市の全小学校に全部学童クラブが併設されています。矢崎小学校にも学童クラブがありますが、校庭で学童以外の子どもたちも学童の先生と一緒に遊んでいます。これがみんな、今の府中市の文化センターに行ったら、文化センターがパンクしてしまうと思います。

委員

ですから現状はそうですが、児童館が活性化しない、生き生きしないのはその辺に原因があるのではと思うだけのことです。

委員

土曜日ごとに学校は体育館の開放をやっています。いつも来るのは、10人以下です。月2回の土曜日は、パソコンや農園や読み聞かせをやっていますが、ボランティアでやっているお母さんが、娘、息子を連れてきて、それでもだんだんだんだん減っていく、魅力があるかないかは別として、どう考えたらいいのでしょうか。

委員

それはあります。

会長

時間がきましたので、今日は終わりにします。副会長の方から1つ項目が追加されましたので、6項目について項目を絞って、なぜ6項目を選んだのか、ニーズ調査からデータをつけたものを総研に作業をお願いして、次回、なぜこういうテーマをこの協議会として選んだのかという根拠づけをした資料を作ってお示しします。

今日は、子育ての情報のところの議論が少し中断になりましたけれど、次回、交流の場と保育、多分ボランティア組織との関係もかなり関わると思いますが、残りの課題をできるだけこなし、一応方向性として議論をして、こういうことがあったという経緯だけ書く部分と、もし合意ができれば、方向性についてある程度合意ができたのか、多数意見だったとかというようなことが書ければというふうに思っております。とりあえずこの議論をして、残りの部分は一応全体像として資料を作ります。いずれにしても最後の部分で、

30分か1時間でできるだけ、もう一度全体を見通せる場を作りたいと思います。それでは、長時間ありがとうございました。

委員

子どもの声を聞くというのは、どのように進めていったらいいと思われそうですでしょうか。

会長

中間まとめのしていくのか、その後の話もありますので、パブリックコメントなんかもどういうことが出てくるかわかりませんが、その辺りで出てくる可能性もあるし、一応計画の最後のところまでに聞くというスタンスをとるか、7月中までに聞くということにするか、もし日程的にかなりタイトだとすると、なかなか組織的には難しいので、それを委員の方で個別にでも聞いて頂く形にするか、今日PTAの話はできませんがいかがでしょうか。

委員

副会長が言っていることはわからないのですが、7番目に何か項目を起こして頂きたいというお話がありましたが、それは、そういう発言があったかということだけで、起こすということまではいっていないように思いますが。

会長

1、求職中の保護者の保育ニーズへの対応というところで、サブタイトルというか、(1)(2)でもいいんですが、保育費用の問題ですが、保育というのは幼稚園も含めた、広い意味の保育費用の負担の問題です。求職者ということではありませんが、非常に費用の高い、措置以外の保育ニーズに対する費用負担ということで、この中の1事業、1項目だと思えます。

委員

わかりました。

会長

むしろ1の中で総合的に議論をして頂きたいと思います。賛成、反対の議論が出てきて、両論併記になるかもしれませんが、或は市の方からやりますというお話が出るかもしれません。具体的に子どもの意見を聞くという、こういう方法でやったらというご提案はございますか。

委員

先程申し上げたのが1つで、その分野は現在活動されている訳ですから、こういった形ならできるのででしょうか。

会長

あるいは既存のものはあるのですか。

委員

青少対の方ではどうでしょうか。

委員

音楽会コンサートとか、カレー炊飯をやってみたり。

会長

途中で年度事業に急に食い込むというのはなかなか難しいです。

委員

あとルートをお持ちでないと、普段の活動はできないと思うぐらい、そのルートは持っていらっしやると思うので、そのルートをいかに活用するかぐらいしか、今新たにどうのこうのということではありません。

会長

例えば、アンケートの用紙か何かを作って、何とか小学校の6年生のクラスにくばれませんか。

委員

やり方に関してはここで決まらないと思います。ですけれども、子どもたちの意見を聞かなくていいのかという質問です。

会長

逆に言えば、何を聞くのかという質問項目も当然あります。

委員

自分たちの居場所はどうかですか。私たちは今何にも資料がない、意見もない中でこうやって議論していいのでしょうか。私の中での疑問です。

委員

私もその不安はあります。児童館をよくして欲しいとか、私もいろいろ希望はありますが、果たしてよくして、そこに子どもたちが集まるのかという不安もあるので、なかなか難しいです。おっしゃる気持ちもわかります。整備したからといって、必ず子どもが集まるかどうか疑問です。

会長

いかがでしょう。保育士なり児童の指導員の方がいらっしやれば相当上手くと思います。

委員

そういう方がいれば大丈夫です。

委員

例えば、学童がおもしろそうだから一緒に遊びたいと思う子が、在宅の子でいるかもしれませんが、そういう子も一緒に遊べたらすごく活気が出ると思います。そこが魅力あるところになると思います。

会長

子どもの数が少なくなっているし、同じ世代でも塾に行かせられる子もいる訳だから、同じ時間帯に子どもが集まるというのはなかなか難しいです。だから集めるために何かポイントがなければ、子どもが群れるというのは非常に難しいです。子どもが1人ひとりみんな家庭によって分断されていますから、学校行事とか何かでないとなかなか集まりません。

委員

危機管理というか、事故のことの管理をどうしても大人は考えてしまいますから、先程のように、ちゃんと自宅へ何時に帰さなければならない責任があるとか、そういう問題が出てきてしまいますので、難しい問題なのかもしれません。

会長

何かございますか。

委員

次世代を育てるための制度を作っていこうとしているのですから、本当に発想を変えないとできません。やはり何十年で培われてきてできた時代のひずみとして、いろいろな問題が起きているのだから、新たに支援をどう作っていこうかという時には、本当にそこから出てきた問題点をきちんとチェックして、それを大胆に取り入れていくという発想が必要です。この1年で、この委員で政策を作ることが、最初自信がありませんと言ったのはそこです。でも、なった以上は、できることとできないこと、それから長期にできること、短期にできることということで、責任持って勉強しながら関わっているのが実情です。発想を変えて、次の世代を育てるといのは、若者もボランティアも、講義だけで学べないことが実際を通じてわかっていくし、私たちのスタッフも最初一歩踏み出せなかった人間が、サポートする中でどんどん変わっていきます。先程おっしゃったように、「しらとり」も10何年かかってやっと今の形ができてきているのだから、何でもありという発想で作っていかないといけません。

会長

要は、これは10年計画ですから、最初に5年計画の中で、そういう情報を集めるということを目標にして、とりあえずこれからやってみましょう。その中で個人の秘密が守れるような投書箱を入れて、子どもの意見を聞くというのもあってもいいかもしれません。逆

に言えば、今府中市の子どもがどう考えているかということ調べようとして、どうやったら調べられるのか、子どもというのは一体何歳から何歳までなのか、そういうことも考えると、この前の調査ぐらいの規模のお金をかけてやらないとできないかもしれません。

委員

お金がかからない方法は、パブリックコメントの中で出向いていくなどですか。

会長

パブリックコメントというのは、大体インターネットなどでとるぐらいでしょう。中央官庁はそんなふうにやっています。

子育て支援課長

子どもは、例えば情報公開室にまず印刷物を置くという手法と、ホームページを使います。それであわせて、説明会という形で会場設定をして、回数はわかりませんが、できればやりたいと思っています。

委員

だからそこで子どもも大人も、老若男女も問わず来てもらえばいいのではないのでしょうか。

会長

子どもも大人もといっても、幼稚園の子どもは書けないし、小学校低学年は親が書いてしまうし、親と子と別々に集計したらいい。

委員

1つは、こういうふうな行動計画を作るということだけでも大勢で考えたいですし、来るか来ないか、それは結果であって、とにかく大勢の人から求める形を作るべきだと思います。

会長

パブリックコメントのところでいろいろな説明会をするというのであれば、例えば、学校に1つそういう機会を設けて頂いて、その生徒達に書いて頂くということも1つ考えてもいいということですが、いかがでしょうか。

子育て支援課長

少し保留させて下さい。

副会長

私は基本的には聞かないでいいと思います。というのは、おっしゃったように、大人が真剣に考えて、真剣に考えれば考えるほど、場所や人や予算のことが問題になって、でき

できないというような話を今している訳なのに、子どもに具体的な意見は言えないから私たちが出ているんだという自負がありますから、私は聞かないでいいと思います。

ただ、皆さんが聞きたいというなら、それはこういう会ですから、賛成をして、もしなさるならぜひ聞きたいのは、大人の働き方について聞きたいです。「お父さんやお母さんがずっと夜まで働いていてうれしいですか」とか、そういうことは聞きたいです。「本当はお母さんにおうちにいて欲しい」とか、そういう意見があるなら、子どもの意見としては本当に聞きたいです。ただ、具体的な施策として、予算とか人とか物が要るようなものについて、いろいろな意見を言われたとしても、大人のフィルターを通さなければ実現できるかどうかわかりませんし、そうすると、例えば、小学生なら北村委員がいらっしゃるし、北川委員も元PTAのP連の会長だから、そういう意味ではそういうところを集約した上で、大人のフィルターを通さないと、やはり意見を集めるだけ、結構余分な時間がかかってしまうので、私は基本的には集める必要はないという意見です。

委員

矢崎小の子どもは、身近な問題を行政側の理解のもとで改善しようと取り組んでいます。矢崎の子どもの願いはある程度分りますが、武蔵台小や府中一小や南町小など他校の子どもの願いは一律ではありませんのでやはり無理です。それから、子ども子どもといいますが、子どものものの考え方とか価値観は、ご家庭とか学校とかいろいろなところで形成されてくるものです。府中市の子どもの意向は何かということでは分りませんし、自信がありません。ただ、学校として子どもたちにこうあってほしい、府中の子どもはこのように育ててほしいとの願いや教育の目標は府中市としても明確です。

委員

実際に、青少対も普段の活動の中で、子どもと一緒にやっている訳ですから、声は聞いていると思うし、PTAもそういう意味では、一步外に出たら地域パトロールなどをやっていて、軽く聞き出せれば戻るかなと思ったぐらいなんです。次の世代がどういう府中で暮らしたいか、その子たちがまた府中に住み続けて、府中で働く先があったらいいというような案もありましたけど、それでまた次の世代を作っていく、そういった環境のいい府中市を子ども達もどう考えていきたいのかといった視点はやはりあるべきで、聞き方に関しては、時間も要るし、費用も要るのは、わかります。でもやはりそういう部分もどんどんPTAの会長さんなんかは言って頂いて、元PTA会長もいらっしゃる訳ですから、その辺の、次の世代がまた次の世代をはぐくんでいかれるような、逆に、そういう視点の子どもたちへの発想をこちらが求めていきたいというような、そういうメッセージが伝わればいいと思います。

会長

わかりました。子どもの人権条約でも子どもの意見を聞くというのが1つありますから、それは悪いことではありません。時間の問題もあるので、それこそ皆さん代弁者になって、子どもの発言をこの場で伝えて頂きたい、そういう意識のおありの委員はぜひそうして頂きたいと思います。また北川委員の方で、もしそういうものがあるとか、或はやってもし

いというお話があれば別ですけれども、とりあえずそういう形で、全体として何かやるということは差し控えさせて頂きたいと思います。

先程申し上げたように、次回は残りの課題を議論したいと思います。特に保育の話はお金のかかる話ですし、具体的に都にニーズ量を報告する話になりますので、この辺りを中心に、次回はできるだけコンパクトにやりたいと思います。よろしくお願いたします。長時間ありがとうございました。

子育て支援課長

今回は7月13日(火)14時から北庁舎で行います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上